

明和町の学校

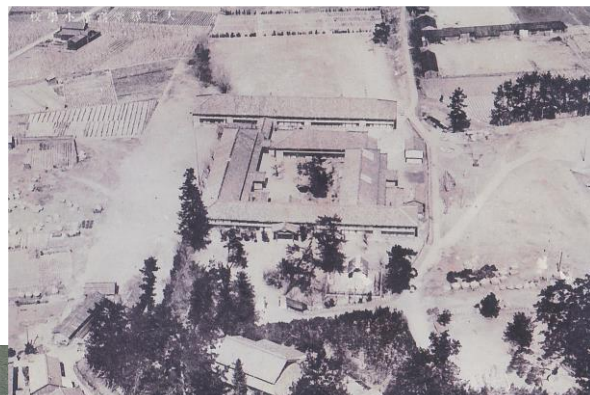
明治時代以前の子どもたちはみんなが教育を受けていたわけではなく、一部の子供が寺子屋てらこやに通い、字の読み書きを僧侶から学ぶというものでした。

明治5年（1872）に学校教育の制度を定め、全国に学校が造られ始めました。明和町内でも明治5年から13年にかけて15校の学校がありました。当時の学校は今のように大きな校舎ではなく、村にある寺院や建物を仮校舎として使用していました。その後、合併がっぺいもあり明治15年（1882）から22年以降は7校の尋常じんじょう小学校、昭和16年（1941）には6校の国民学校となりました。

昭和33年（1958）に斎明村と三和町が合併して明和町となり、明和町立の6校（大淀小学校、下御糸小学校、上御糸小学校、斎宮小学校、明星小学校、修正小学校）となりました。令和4年度に修正小学校が閉校となり、令和7年度に大淀小学校、上御糸小学校、下御糸小学校の3校が閉校となり、令和8年度から新たに明和北小学校が開校しました。



大淀小学校（昭和初期頃か）



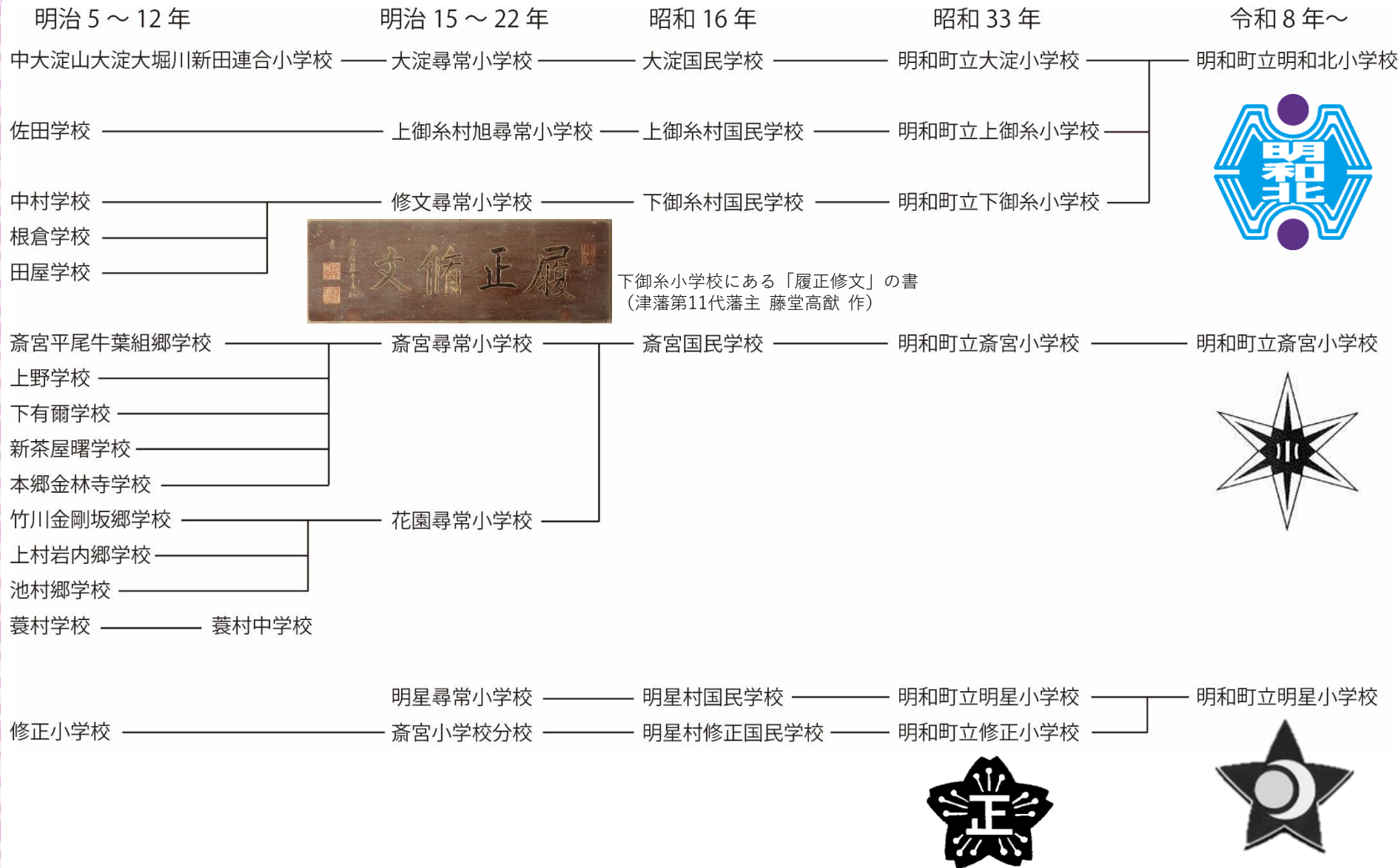
下御糸小学校（昭和28年）



上御糸小学校（昭和20年代頃）



キーワード：教育、義務教育、尋常小学校、国民学校



明和町の小学校の移り変わり (一部の学校を抜粋)